

JCM方法論（案）は素案であり、二国間クレジット制度の下で承認されたものではなく、また同制度で将来承認されることを保証するものではありません。

H26 年度 JCM 方法論 和文要約

A. 方法論タイトル

都市固形ごみ（MSW）の焼却による発電と埋立処分場ガス排出回避

B. 用語の定義

用語	定義
都市固形ごみ（MSW）	様々なタイプの固形ごみが混ざったもので、通常、地方自治体やその他地方機関により収集される。MSW は家庭ごみ、庭/公園ごみ、商業ごみを含む。
固形ごみ埋立処分場（SWDS）	固形ごみを最終貯留する場所として指定された場所。
新しいごみ	SWDS に処分するつもりであったが処分されていない固形ごみ。MSW を含む可能性があり、古いごみや危険ごみを含まない。

C. 方法論概要

項目	概要
GHG 排出削減量の手法	MSW 焼却施設の導入により、SWDS への有機系ごみの処分に伴う CH ₄ 排出を回避するとともに、プロジェクト施設がグリッドまたは自家発電による化石燃料起源の電力を代替し、GHG の排出を削減する。
リファレンス排出量の算定	MSW の BaU 処理はオープンダンピングと考えられるが、保守性を担保するため BaU 排出量に割引係数を乗じる。リファレンス排出量は以下の排出量の合計に割引係数を乗じて計算する。 <ul style="list-style-type: none"> ● SWDS からの CH₄ 排出：焼却される MSW の量及びごみ組成から、FOD（First order decay）モデルを用いて計算 ● グリッドまたは自家発からの CO₂ 排出：プロジェクト施設による発電量に、代替される電力の排出係数を乗

	じる
プロジェクト排出量の算定	<p>プロジェクト排出量は以下の排出量の合計として計算する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● MSW中の化石燃料由来の炭素の燃焼からのCO₂排出：MSWの量に化石燃料由来の炭素割合及び炭素換算係数を乗じる ● ごみの燃焼からのN₂O排出量：MSWの量に焼却に係るN₂O排出係数を乗じる ● プロジェクト施設稼動に用いられる電力からのCO₂排出：プロジェクト施設稼動に用いられる電力量に電力の排出係数を乗じる ● 焼却に伴う補助化石燃料消費からのCO₂排出：焼却に伴う化石燃料消費量に化石燃料の排出係数を乗じる
モニタリングパラメータ	<ul style="list-style-type: none"> ● ごみ量（ウェットベース） ● ごみ組成（ウェットベース） ● プロジェクト施設からの総売電力量 ● プロジェクト施設での総買電力量 ● 補助化石燃料消費量

D. 適格性要件

本方法論は以下の全ての要件を満たすプロジェクトに適用することができる。

要件 1	プロジェクトは新規に焼却炉、廃熱回収ボイラ、排ガス処理設備、発電機を導入する
要件 2	プロジェクトは新しいMSWを焼却し、焼却の熱を用いてボイラで生成される上記から発電する
要件 3	プロジェクト施設は、プロジェクトで焼却されるごみが発生する自治体内に建設される
要件 4	設計図書における、補助化石燃料により生成されるエネルギーの割合は、通常稼動時に、焼却炉で生成される全エネルギーの50%以下であることが計画されている
要件 5	発電された電力はグリッドに供給または化石燃料使用の自家発の代替に用いられる
要件 6	焼却炉の煙突におけるNO ₂ 及びCOの排出は、次のレベル以下となるように設計されている：NO ₂ (230mg/m ³ 11%O ₂ 換算), CO (42mg/m ³ @11%O ₂ 換算)

E. GHG 排出源及び GHG 種類

リファレンス排出量	
GHG 排出源	GHG 種類
SWDS におけるごみの分解	CH ₄
発電	CO ₂
プロジェクト排出量	
GHG 排出源	GHG 種類
化石燃料ベースのごみの焼却	CO ₂
ごみの焼却	N ₂ O
オンサイトの電力使用	CO ₂
焼却炉に追加することが必要な補助化石燃料の消費	CO ₂

F. リファレンス排出量の設定と算定

F.1. リファレンス排出量の設定

本方法論を適用するプロジェクトは MSW を焼却し発電する。ミャンマーでは MSW はオープンダンプサイトに処分されている。焼却処理等のその他の方法でゴミ処理を行う動きはあるが、そのコストが実現化の障壁となっており、資金的な支援がなければその他の方法は導入されない。そのため、ゴミ処理の BaU はオープンダンプングであり、BaU 排出量は MSW のオープンダンプングからの CH₄ 排出及びプロジェクトにより代替される電力を発電するために燃焼される化石燃料からの CO₂ 排出である。リファレンス排出量を保守的に推計するため、計算した BaU 排出量にゴミ処理状況を考慮した割引係数を乗じる。

F.2. リファレンス排出量の算定

$$RE_p = (RE_{CH_4,p} + RE_{elec,p}) \times DF_{RATE}$$

ここで:

- RE_p = 期間 p 中のリファレンス排出量 (tCO₂e/p)
 $RE_{CH_4,p}$ = 期間 p 中の SWDS におけるごみの分解からのリファレンス排出量 (tCO₂e/p)
 $RE_{elec,p}$ = 期間 p 中の発電からのリファレンス排出量 (tCO₂e/p)
 DF_{RATE} = 割引係数

$$DF_{RATE} = 1 - RATE$$

ここで:

- DF_{RATE} = 割引係数
 $RATE$ = プロジェクトにより焼却されるごみが生じる自治体で発生する全ごみ量に占める中間処理されるごみ量の割合 (weight fraction)

$$RE_{CH_4,p} = \sum_{m=p_start}^{p_end} \left\{ \varphi \times (1 - f) \cdot GWP_{CH_4} \cdot (1 - OX) \cdot \frac{16}{12} \cdot F \cdot DOC_f \cdot MCF \cdot \sum_{i=1}^m \sum_j W_{j,i} \cdot DOC_j \cdot e^{-\frac{k_j}{12}(m-i)} \cdot \left(1 - e^{-\frac{k_j}{12}} \right) \right\}$$

ここで:

- $RE_{CH_4,p}$ = 期間 p 中の SWDS におけるごみの分解からのリファレンス排出量 (tCO₂e/p)
 m = CH₄ 排出を計算する期間 p の月
 p_start = CH₄ 排出を計算する期間 p 中の最初の月
 p_end = CH₄ 排出を計算する期間 p 中の最後の月
 i = SWDS においてごみが分解される期間の月, 1 ヶ月目 ($i = 1$) から m ヶ月目 ($i = m$) まで
 φ = モデルの不確実性を考慮するためのモデル補正係数
 f = SWDS で回収され、その他の方法でフレア、燃焼または使用され、CH₄ の大気中への排出を回避する割合
 GWP_{CH_4} = CH₄ の地球温暖化係数 (tCO₂e/tCH₄)
 OX = 酸化係数(土壌またはごみを覆うその他の素材の中で酸化される SWDS からの CH₄ 量を反映)
 F = SWDS ガス中の CH₄ 割合 (volume fraction)
 DOC_f = SWDS で生じる特定の条件下で分解される分解可能有機炭素割合

	(weight fraction)
MCF	= CH ₄ 補正係数
W _{j,i}	= <i>i</i> 月に焼却されるごみ種 <i>j</i> の量 (t)
DOC _{<i>j</i>}	= ごみ種 <i>j</i> 中の分解可能有機炭素割合 (weight fraction)
k _{<i>j</i>}	= ごみ種 <i>j</i> の分解速度 (1/yr)
<i>j</i>	= ごみ種
$W_{j,i} = W_i \times \frac{\sum_{n=1}^3 P_{n,j,i}}{3}$	
ここで:	
W _{j,i}	= <i>i</i> 月に焼却されるごみ種 <i>j</i> の量 (t)
W _{<i>i</i>}	= <i>i</i> 月に焼却されるごみの量 (t)
P _{<i>n,j,i</i>}	= <i>i</i> 月を含む連続した3ヶ月間に収集されたサンプル <i>n</i> 中のごみ種 <i>j</i> の割合 (weight fraction)
<i>n</i>	= <i>i</i> 月を含む連続した3ヶ月間に収集された3つのサンプル
<i>j</i>	= ごみ種
<i>i</i>	= SWDSにおいてごみが分解される期間の月, 1ヶ月目(<i>i</i> = 1)から <i>m</i> ヶ月目 (<i>i</i> = <i>m</i>)まで
<i>m</i>	= CH ₄ 排出を計算する期間 <i>p</i> の月数
$RE_{elec,p} = EG_{elec,p} \times EF_{elec}$	
ここで:	
RE _{elec,p}	= 期間 <i>p</i> 中の発電からのリファレンス排出量 (tCO ₂ e/p)
EG _{elec,p}	= 期間 <i>p</i> におけるプロジェクト設備からの総売電力量 (MWh/p)
EF _{elec}	= 発電の排出係数(tCO ₂ e/MWh)

G. プロジェクト排出量の算定

$PE_p = PE_{COM_CO2,p} + PE_{COM_N2O,p} + PE_{EC,p} + PE_{FC,p}$	
ここで:	
PE _{<i>p</i>}	= 期間 <i>p</i> 中のプロジェクト排出量 (tCO ₂ e/p)
PE _{COM_CO2,p}	= 期間 <i>p</i> 中の焼却に伴う化石燃料由来ごみ燃焼からのプロジェクト CO ₂ 排出量 (tCO ₂ e/p)
PE _{COM_N2O,p}	= 期間 <i>p</i> 中の焼却に伴うごみ燃焼からのプロジェクト N ₂ O 排出量 (tCO ₂ e/p)

$PE_{EC,p}$ = 期間 p 中のプロジェクト施設における電力消費からのプロジェクト排出量 (tCO₂e/p)

$PE_{FC,p}$ = 期間 p 中の焼却に伴う化石燃料消費からのプロジェクト排出量 (tCO₂e/p)

$$PE_{COM_CO2,p} = EFF_{COM} \times \frac{44}{12} \times \sum_j W_{j,p} \times (1 - WC) \times FCC_j \times FFC_j$$

ここで:

$PE_{COM_CO2,p}$ = 期間 p 中の焼却に伴う化石燃料由来ごみ燃焼からのプロジェクト CO₂ 排出量 (tCO₂e/p)

EFF_{COM} = 焼却の燃焼効率 (fraction)

$\frac{44}{12}$ = 換算係数 (tCO₂/tC)

$W_{j,p}$ = 期間 p 中に焼却されるごみ種 j の量 (t/p)

WC = ごみの含水率 (%)

FCC_j = ごみ種 j 中の総炭素含有割合 (% dry waste)

FFC_j = ごみ種 j 中の総炭素量中の化石燃料由来の炭素割合 (weight fraction)

$$W_{j,p} = \sum_i^m \left(W_i \times \frac{\sum_{n=1}^3 P_{n,j,i}}{3} \right)$$

ここで:

$W_{j,p}$ = 期間 p 中に焼却されるごみ種 j の量 (t/p)

W_i = i 月に焼却されるごみの量 (t)

$P_{n,j,i}$ = i 月を含む連続した 3 ヶ月間に収集されたサンプル n 中のごみ種 j の割合 (weight fraction)

n = i 月を含む連続した 3 ヶ月間に収集された 3 つのサンプル

j = ごみ種

i = SWDS においてごみが分解される期間の月, 1 ヶ月目 ($i = 1$) から m ヶ月目 ($i = m$) まで

m = CH₄ 排出を計算する期間 p の月数

$$PE_{COM_N2O,p} = W_i \times EF_{N2O} \times GWP_{N2O}$$

ここで:

$PE_{COM_N2O,p}$ = 期間 p 中の焼却に伴うごみ燃焼からのプロジェクト N₂O 排出量 (tCO₂e/p)

W_i = i 月に焼却されるごみの量 (t)

EF_{N2O} = 焼却に伴う N₂O 排出係数 (tN₂O/t waste)

GWP_{N2O} = N₂O の地球温暖化係数 (tCO₂e/tN₂O)

$$PE_{EC,p} = EC_p \times EF_{elec}$$

ここで:

$PE_{EC,p}$ = 期間 p 中のプロジェクト施設における電力消費からのプロジェクト排出量 (tCO₂e/p)

EC_p = 期間 p におけるプロジェクト施設での総買電力量 (MWh/p)

EF_{elec} = 発電の排出係数 (tCO₂e/MWh)

$$PE_{FC,p} = \sum_{fuel} FC_{fuel,p} \times NCV_{fuel} \times EF_{CO_2,fuel}$$

ここで:

$PE_{FC,p}$ = 期間 p 中の焼却に伴う化石燃料消費からのプロジェクト排出量 (tCO₂e/p)

$FC_{fuel,p}$ = 期間 p 中に燃焼される燃料の量 (kL or m³/p)

NCV_{diesel} = 燃料の低位発熱量 (GJ/kL or m³)

$EF_{CO_2,fuel}$ = 燃料の CO₂ 排出係数 (tCO₂/GJ)

$fuel$ = 燃料種

H. 排出削減量の算定

$$ER_p = RE_p - PE_p$$

ここで:

ER_p = 期間 p 中の排出削減量 (tCO₂e/p)

RE_p = 期間 p 中のリファレンス排出量 (tCO₂e/p)

PE_p = 期間 p 中のプロジェクト排出量 (tCO₂e/p)

I. 事前に確定したデータ及びパラメータ

事前に確定した各データ及びパラメータの出典は以下のリストのとおり。

Parameter	Description of data	Source
r		
RATE	プロジェクトで焼却するごみが生じる自治体で発生する全ごみ量に占める中間処理されるごみ量の割合 (weight fraction) 自治体から提供されるデータや情報を用いて、妥当性確認時またはオペレーション開始時の	自治体から提供されるデータや情報

	いずれか早い時点で決定	
ϕ	モデルの不確実性を考慮するためのモデル補正係数 デフォルト値: 0.85 右記ツールの ϕ_{default} のデフォルト値から適切な値を選択。	CDM Methodological Tool “Emissions from solid waste disposal sites” (Version 06.0.1)
f	SWDS で回収され、その他の方法でフレア、燃焼または使用され、 CH_4 の大気中への排出を回避する割合 デフォルト値: 0	ミャンマーでの状況を考慮して決定
GWP_{CH_4}	CH_4 の地球温暖化係数($\text{tCO}_2\text{e}/\text{tCH}_4$) デフォルト値: 25	Table 2.14, of the errata to the contribution of Working Group I to the Fourth Assessment Report of the IPCC
OX	酸化係数(土壌またはごみを覆うその他の素材の中で酸化される SWDS からの CH_4 量を反映) デフォルト値: 0.1	CDM Methodological Tool “Emissions from solid waste disposal sites” (Version 06.0.1)
F	SWDS ガス中の CH_4 割合(volume fraction) デフォルト値: 0.5	CDM Methodological Tool “Emissions from solid waste disposal sites” (Version 06.0.1)
DOC_f	SWDS で生じる特定の条件下で分解される分解可能有機炭素割合(weight fraction) デフォルト値: 0.5	CDM Methodological Tool “Emissions from solid waste disposal sites” (Version 06.0.1)
MCF	CH_4 補正係数 プロジェクトの状況を考慮して以下から 1 つを選択 (1) ヤンゴン市内: 0.8 右記ツールの $\text{MCF}_{\text{default}}$ のデフォルト値からヤンゴン市での状況を考慮し適切な値を選択。 (2) ミャンマーのその他の場所: (2)-1 水位が SWDS の底よりも上にある場合、	CDM Methodological Tool “Emissions from solid waste disposal sites” (Version 06.0.1)

	<p>次の数式を用いて MCF を推定。</p> $\text{MCF} = \text{MAX} \left\{ \left(1 - \frac{2}{d_y} \right), \frac{h_{w,y}}{d_y} \right\}$ <p>$h_{w,y}$ = SWDSの底からの水位の高さ (m) d_y = SWDSの深さ (m)</p> <p>(2)-2 In case that the SWDS does not have a water table above the bottom of the SWDS, select the applicable value from the following:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1.0 嫌気的管理型固形ごみ処分場：管理されたごみの配置となっていなければならない（すなわち、特定の場所に置かれるごみ、ある程度の scavenging の管理、ある程度の火災の管理）、少なくとも以下の 1 つを含む (i) 被覆材、(ii) 機械的圧縮、(iii) ごみの整地 ● 0.5 準好気的管理型固形ごみ処分場：管理されたごみの配置となっていなければならない、ごみの層に空気を入れる以下の仕組みの全てを含む (i) 浸透性の被覆材、(ii) 浸出水排水システム、(iii) 貯水量の調整、(iv) ガス換気システム ● 0.8 非管理型固形ごみ処分場—深い：管理型 SWDS の基準に合致せず、かつ深さが 5m 以上あるすべての SWDS ● 0.4 非管理型の浅い固形ごみ処分場または SWDS とみなされるストックパイル：管理型 SWDS の基準に合致せず、かつ深さが 5m 未満のすべての SWDS。SWDS とみなされる固形ごみのストックパイルを含む。 									
DOC _j	<p>ごみ種 j 中の分解可能有機炭素割合 (weight fraction)</p> <p>DOC_j デフォルト値:</p> <table border="1" data-bbox="373 1760 991 1998"> <thead> <tr> <th>Waste type j</th> <th>DOC_j (% wet waste)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Wood and wood products</td> <td>43</td> </tr> <tr> <td>Pulp, paper and cardboard (other than sludge)</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>Food, food waste, beverages and tobacco (other than sludge)</td> <td>15</td> </tr> </tbody> </table>	Waste type j	DOC _j (% wet waste)	Wood and wood products	43	Pulp, paper and cardboard (other than sludge)	40	Food, food waste, beverages and tobacco (other than sludge)	15	<p>CDM Methodological Tool “Emissions from solid waste disposal sites” (Version 06.0.1) and Table 2.4, chapter 2, volume 5 of 2006 IPCC guidelines</p>
Waste type j	DOC _j (% wet waste)									
Wood and wood products	43									
Pulp, paper and cardboard (other than sludge)	40									
Food, food waste, beverages and tobacco (other than sludge)	15									

	<table border="1"> <tr><td>Textiles</td><td>24</td></tr> <tr><td>Garden, yard and park waste</td><td>20</td></tr> <tr><td>Nappies</td><td>24</td></tr> <tr><td>Glass, plastic, metal, other inert waste</td><td>0</td></tr> <tr><td>Sludge</td><td>5</td></tr> </table>	Textiles	24	Garden, yard and park waste	20	Nappies	24	Glass, plastic, metal, other inert waste	0	Sludge	5					
Textiles	24															
Garden, yard and park waste	20															
Nappies	24															
Glass, plastic, metal, other inert waste	0															
Sludge	5															
k_j	<p>ごみ種 j の分解速度(1/yr)</p> <p>k_j デフォルト値:</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">Waste type j</th> <th>k_j (1/yr)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">Slowly degrading</td> <td>Pulp, paper, cardboard (other than sludge), textiles</td> <td>0.07</td> </tr> <tr> <td>Wood, wood products and straw</td> <td>0.035</td> </tr> <tr> <td>Moderately degrading</td> <td>Other (nonfood) organic putrescible garden and park waste</td> <td>0.17</td> </tr> <tr> <td>Rapidly degrading</td> <td>Food, food waste, sewage sludge, beverages and tobacco</td> <td>0.40</td> </tr> </tbody> </table> <p>ミャンマーの気候を考慮し、熱帯(年平均気温 >20°C)湿潤(平均年降水量>1000mm)のデフォルト値を選択。</p>	Waste type j		k_j (1/yr)	Slowly degrading	Pulp, paper, cardboard (other than sludge), textiles	0.07	Wood, wood products and straw	0.035	Moderately degrading	Other (nonfood) organic putrescible garden and park waste	0.17	Rapidly degrading	Food, food waste, sewage sludge, beverages and tobacco	0.40	CDM Methodological Tool “Emissions from solid waste disposal sites” (Version 06.0.1)
Waste type j		k_j (1/yr)														
Slowly degrading	Pulp, paper, cardboard (other than sludge), textiles	0.07														
	Wood, wood products and straw	0.035														
Moderately degrading	Other (nonfood) organic putrescible garden and park waste	0.17														
Rapidly degrading	Food, food waste, sewage sludge, beverages and tobacco	0.40														
EF_{elec}	<p>発電の排出係数(tCO₂e/MWh)</p> <p>プロジェクトの状況を考慮して以下から1つを選択</p> <p>グリッド電力: ミャンマーがホスト国となっている CDM プロジェクトの最新の登録案件の PDD の値、または妥当性確認時に最新版の “Tool to calculate the emission factor for an electricity system” を使用して計算した値</p> <p>自家発: CDM 小規模承認方法論 AMS-I.A の最新の値</p>	<p>グリッド電力: ミャンマーがホスト国となっている CDM プロジェクトの最新の登録案件の PDD、または妥当性確認時に最新版の CDM の “Tool to calculate the emission factor for an electricity system”</p> <p>自家発: CDM 小規模承認方法論 AMS-I.A.</p>														
EFF_{COM}	<p>焼却の燃焼効率(fraction)</p> <p>デフォルト値: 1 (100%)</p>	Table 5.2, chapter 5, volume 5 of 2006 IPCC guidelines														
FCC_j	<p>ごみ種 j 中の総炭素含有割合(% dry waste)</p> <p>FCC_j デフォルト値:</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Waste type j</th> <th>FCC_j (tC/t)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Paper/cardboard</td><td>50</td></tr> <tr><td>Textiles</td><td>50</td></tr> <tr><td>Food waste</td><td>50</td></tr> <tr><td>Wood</td><td>54</td></tr> <tr><td>Garden and Park waste</td><td>55</td></tr> </tbody> </table>	Waste type j	FCC_j (tC/t)	Paper/cardboard	50	Textiles	50	Food waste	50	Wood	54	Garden and Park waste	55	CDM approved consolidated baseline and monitoring methodology ACM0022 “Alternative waste treatment processes” (Version 1.0.0)		
Waste type j	FCC_j (tC/t)															
Paper/cardboard	50															
Textiles	50															
Food waste	50															
Wood	54															
Garden and Park waste	55															

	<table border="1"> <tr><td>Nappies</td><td>90</td></tr> <tr><td>Rubber and Leather</td><td>67</td></tr> <tr><td>Plastics</td><td>85</td></tr> <tr><td>Metal*</td><td>NA</td></tr> <tr><td>Glass*</td><td>NA</td></tr> <tr><td>Other, inert waste</td><td>5</td></tr> </table> <p>*Metal and glass contain some carbon of fossil origin. Combustion of significant amounts of glass or metal is not common.</p>	Nappies	90	Rubber and Leather	67	Plastics	85	Metal*	NA	Glass*	NA	Other, inert waste	5													
Nappies	90																									
Rubber and Leather	67																									
Plastics	85																									
Metal*	NA																									
Glass*	NA																									
Other, inert waste	5																									
FFC _j	<p>ごみ種 <i>j</i> 中の総炭素量中の化石燃料由来の炭素割合(weight fraction)</p> <p>FFC_j デフォルト値:</p> <table border="1"> <thead> <tr><th>Waste type <i>j</i></th><th>FFC_j (%)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>Paper/cardboard</td><td>5</td></tr> <tr><td>Textiles</td><td>50</td></tr> <tr><td>Food waste</td><td>-</td></tr> <tr><td>Wood</td><td>-</td></tr> <tr><td>Garden and Park waste</td><td>0</td></tr> <tr><td>Nappies</td><td>10</td></tr> <tr><td>Rubber and Leather</td><td>20</td></tr> <tr><td>Plastics</td><td>100</td></tr> <tr><td>Metal*</td><td>NA</td></tr> <tr><td>Glass*</td><td>NA</td></tr> <tr><td>Other, inert waste</td><td>100</td></tr> </tbody> </table> <p>*Metal and glass contain some carbon of fossil origin. Combustion of significant amounts of glass or metal is not common.</p>	Waste type <i>j</i>	FFC _j (%)	Paper/cardboard	5	Textiles	50	Food waste	-	Wood	-	Garden and Park waste	0	Nappies	10	Rubber and Leather	20	Plastics	100	Metal*	NA	Glass*	NA	Other, inert waste	100	<p>CDM approved consolidated baseline and monitoring methodology ACM0022</p> <p>“Alternative waste treatment processes” (Version 1.0.0)</p>
Waste type <i>j</i>	FFC _j (%)																									
Paper/cardboard	5																									
Textiles	50																									
Food waste	-																									
Wood	-																									
Garden and Park waste	0																									
Nappies	10																									
Rubber and Leather	20																									
Plastics	100																									
Metal*	NA																									
Glass*	NA																									
Other, inert waste	100																									
WC	<p>ごみの含水率 (%)</p> <p>プロジェクト施設が建設される自治体内で発生するごみの少なくとも3つのサンプルの平均値</p>	<p>プロジェクト参加者による調査</p>																								
EF _{N2O}	<p>焼却に伴う N₂O 排出係数 (tN₂O/t waste)</p> <p>プロジェクトの状況を考慮して、以下のデフォルト値から1つを選択</p> <p>EF_{N2O} デフォルト値:</p> <table border="1"> <thead> <tr><th>ごみ種</th><th>技術/管理方法</th><th>EF_{N2O} (tN₂O/t waste wet basis)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>MSW</td><td>連続及び准連続燃焼式</td><td>1.21*50*10⁻⁶</td></tr> <tr><td>MSW</td><td>バッチ燃焼式</td><td>1.21*60*10⁻⁶</td></tr> </tbody> </table>	ごみ種	技術/管理方法	EF _{N2O} (tN ₂ O/t waste wet basis)	MSW	連続及び准連続燃焼式	1.21*50*10 ⁻⁶	MSW	バッチ燃焼式	1.21*60*10 ⁻⁶	<p>CDM approved consolidated baseline and monitoring methodology ACM0022</p> <p>“Alternative waste treatment processes” (Version 1.0.0) and Table 5.6, chapter 5, volume 5 of 2006 IPCC Guidelines</p>															
ごみ種	技術/管理方法	EF _{N2O} (tN ₂ O/t waste wet basis)																								
MSW	連続及び准連続燃焼式	1.21*50*10 ⁻⁶																								
MSW	バッチ燃焼式	1.21*60*10 ⁻⁶																								
GWP _{N2O}	<p>N₂O の地球温暖化係数 (tCO₂e/tN₂O)</p> <p>デフォルト値: 298</p>	<p>Table 2.14, of the errata to the contribution of Working Group I to the Fourth Assessment Report of the</p>																								

		IPCC										
NCV_{fuel}	燃料の低位発熱量 (GJ/kL or m ³) 請求書もしくはその他の商取引・契約関連の証跡に記載されている仕様から決定	請求書もしくはその他の商取引・契約関連の証跡										
$EF_{CO_2, fuel}$	燃料の CO ₂ 排出係数 (tCO ₂ /GJ) $EF_{CO_2, fuel}$ デフォルト値: <table border="1" data-bbox="373 517 971 728"> <thead> <tr> <th>Fuel type <i>fuel</i></th> <th>$EF_{CO_2, fuel}$ (tCO₂/GJ)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Diesel</td> <td>0.0748</td> </tr> <tr> <td>Gas</td> <td>0.0748</td> </tr> <tr> <td>Kerosene (Other kerosene)</td> <td>0.0737</td> </tr> <tr> <td>Heavy oil (Residual Fuel Oil)</td> <td>0.0788</td> </tr> </tbody> </table> * IPCC default value at the upper limit of the uncertainty at a 95% confidence interval.	Fuel type <i>fuel</i>	$EF_{CO_2, fuel}$ (tCO ₂ /GJ)	Diesel	0.0748	Gas	0.0748	Kerosene (Other kerosene)	0.0737	Heavy oil (Residual Fuel Oil)	0.0788	Table 1.4, chapter 1, volume 2 of 2006 IPCC Guidelines
Fuel type <i>fuel</i>	$EF_{CO_2, fuel}$ (tCO ₂ /GJ)											
Diesel	0.0748											
Gas	0.0748											
Kerosene (Other kerosene)	0.0737											
Heavy oil (Residual Fuel Oil)	0.0788											